



ことば
寿ぎの江戸絵画

特別展 Special Exhibition

おがたこうりん

かきつばたず

尾形光琳の燕子花図

Ogata Kōrin's *Iris* – Felicitations in Edo-period Paintings

2019年4月13日(土) – 5月12日(日)

根津美術館 NEZU MUSEUM
<http://www.nezu-muse.or.jp>



尾形光琳 (1658 ~ 1716) の筆になる国宝「燕子花図屏風」は、爛漫と咲き誇るカキツバタの群生を描いた草花図です。しかしそれは、『伊勢物語』の一節、三河国 (現在の愛知県) の八橋の場面に基づくともいわれます。さらに、八橋は古来、和歌に詠われる「名のある所」であり、したがって、そうした「名所」の風景を描いた作品ということもできます。そんな多面性にちなみ、このたびの「燕子花図屏風」の展示は、三章構成でお楽しみいただけます。

第一章に並ぶ作品が題材にするのは、平安時代以来の公家風俗や王朝文学です。それらは、江戸時代の人々にとって、日常とは異なる「ハレ」の気分の源泉ともなりました。つづく第二章では、「燕子花図屏風」を中心に、草花を描いた作品を集めます。これら草花図も、江戸初期の宮廷周辺における草花ブームに端を発しています。そして第三章は、祇園祭に沸く京の都や、社寺参詣や物見遊山の人々でにぎわう各地の名所を描いた作品です。当館が所蔵する洛中洛外図屏風や名所風俗図屏風をまとめて紹介するはじめての機会ともなります。

王朝文化への憧れ、草花愛好、そして祭礼と遊楽。それらはいずれも、江戸時代になってもたらされた太平の世を生きる喜びの現れであり、それらを絵に描くことは、平和な時代を寿ぐ営みであるともいえます。

折しも、会期中には皇位の継承が予定されています。本展によって、ささやかながら祝意を表したいと思えます。

根津美術館
NEZU MUSEUM



第1章 王朝文化への憧れ



げんじものがたりずびょうぶ
源氏物語図屏風

住吉具慶筆

6曲1双 紙本着色

日本・江戸時代 17世紀

根津美術館蔵



右隻に描かれるのは「若菜上」巻、光源氏40歳の祝いの日の場面。左隻は「若菜下」巻から源氏の住吉詣でを描く。人生の絶頂にある源氏を、妻や娘たちが祝福する内容をもつ小ぶりの屏風は、婚礼調度として制作されたと考えられる。



(部分拡大)



重要美術品

おうか けまり ずびょうぶ
桜下蹴鞠図屏風

6曲1双 紙本金地着色

日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

右隻には桜樹に囲まれて公卿や僧侶、稚児らが蹴鞠をする姿、左隻には垣根の外で主人を待つ従者たちを描く。京都の町衆たちの貴族趣味が反映している。

第2章 草花を愛でる



国宝

かきつばた ずびょうぶ
燕子花図屏風 尾形光琳筆

6曲1双 紙本金地着色

日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵



京都の高級呉服商に生まれ育った光琳が達成した、絵画性とデザイン性の見事な融合。上質な絵の具をふんだんに用いた豪華な金屏風は、カキツバタの息吹を伝えつつ、単なる草花図を超えて、日本の絵画史上に燦然と輝きを放っている。

第2章 草花を愛でる



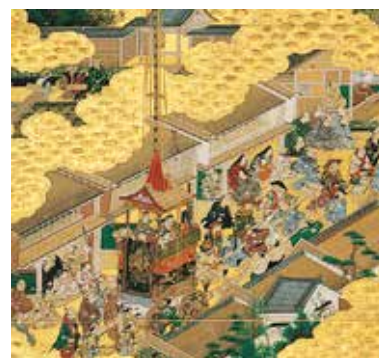
そうか ずびょうぶ いねん
草花図屏風 伊年印
6曲1双 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

江戸初期の園芸趣味をうけ、多種多様な草花を描く屏風を生み出したのは俵屋宗達たわらやそうだつの工房だった。本作品は宗達の2世代後の後継者、喜多川相説きたがわそうせつないしはその工房作。

第3章 名所と人の営みを寿ぐ



らくちゅうらくがいずびょうぶ
洛中洛外図屏風
8曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 福島静子氏寄贈



(右隻部分拡大)

京都の市街(洛中)と郊外(洛外)の景観を鳥瞰的に描き、そこでの人々の営みを細やかに描き込む。とくに、祇園祭の山鉾巡行と神輿渡御に描写のウエートが置かれる。

京都からの「お伊勢参り」の道のりを、道中の名所を盛り込みながら描く。多彩な風俗描写も見どころである。伊勢神宮に向かう橋の上から参拝客が投げる賽銭を、川の中で網を手に待ち構える人々の姿まで！



(左隻部分拡大)

いせ さんぐうどうちゅうずびょうぶ
伊勢参宮道中図屏風
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17-18世紀
根津美術館蔵

展示室 5 机上を彩る箱

筆、墨、硯…机の上の様々な道具をまとめて収める箱。蒔絵の作品を中心に、その美しさだけでなく、箱に込められた物語を読み解きます。



じんぶつまきえすずりぼこ
人物蒔絵硯箱
いいつかとうよう はまのしょうずい
飯塚桃葉・浜野政随作
1合 蒔絵・象嵌 木胎漆塗
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

蒔絵は蜂須賀家の御用蒔絵師・飯塚桃葉。所々に嵌められた金工は浜野政随作と伝えられる、名工のコラボレーション作品。



重要美術品
きくまきえすずりぼこ
菊蒔絵硯箱
1合 蒔絵 木胎漆塗
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

蒔絵の硯箱の名品は、室町時代の作例に多い。不老長寿の効があるとされる菊が一枝、大胆に配される本作もそのひとつである。

展示室 6 風薫る茶席

青葉の中を通り抜けた風がさわやかに吹くこの季節。風薫る初夏の茶席にふさわしい茶道具約20件の取り合わせをご覧ください。



まるつぼちやいれ あおやま
丸壺茶入 銘 青山
福州窯系
1口 施釉陶器
中国・南宋～元時代 13-14世紀
根津美術館蔵

銘「青山」は、徳川家康の家臣・青山忠成が所持したことにちなむ。さらに、青い山と緑の水より雄大な自然をあらわす禅語「青山緑水」も想起させる。



さはりつりふねはないれ ひらた
砂張釣舟花入 銘 髷
1枚 響銅
東南アジア 15世紀
根津美術館蔵

舟形の花入は、床の天井から鎖で吊るして飾り付けることから釣舟と称される。本作は古くから名品として知られ、扁平な姿より「髷（平らな川舟）」の銘がつけられた。

イベント情報

| 夜間開館

5月8日(水)から
5月12日(日)は
午後7時まで開館。
(入館は閉館30分前まで)



夜間開館期間中、NEZUCAFÉでは
午後5時以降にシャンパンを販売いたします。
アフター5にどうぞお立ち寄りください。

グラスシャンパン
1,500円(税込)
シャンパン&プロシュートセット
1,900円(税込)



| 舞囃子「百萬」

夜間開館の一日、夕暮れの庭園を臨むエントランスホールで、幽玄の舞姿をお楽しみください。

日時：5月9日(木) 午後5時30分～6時
出演：九世 観世鍔之丞氏(能楽師)



(イメージ)

- ・「舞囃子」は、一曲の見どころを面装束をつけず謡と囃子のみで上演する形式のことです。
- ・事前申込は不要ですが、美術館入館料が必要です。
- ・着席観覧ご希望の方には、午後4時から抽選券を配布しますので当館地下1階講堂前へお集まりください。抽選結果は午後5時に発表いたします。(立見でもご覧になれます。)

庭園からのご案内

作品のご鑑賞とともに、カキツバタの咲く庭園の散策もお楽しみください。(開花予想：4月下旬～5月上旬)



庭園内茶室でくつろぎのひとつときを

本展期間中、庭園内茶室「披錦齋」でお抹茶と和菓子のセットを販売いたします。(税込 1,000 円)
庭園の緑を眺めながら、おくつろぎください。



(茶室の利用状況により、販売を行わない日もございます。実施の有無は当日ご確認ください。この間 NEZUCAFE でのお抹茶セットの販売は休止します。)

(イメージ)

関連プログラム

講演会

講演会 1 「燕子花図と洛中洛外図」
日時 4月20日(土) 午後2時～3時30分
講師 奥平 俊六氏(大阪大学名誉教授)

講演会 2 「旅する屏風―お伊勢参りは道中も楽し」
日時 4月27日(土) 午後2時～3時30分
講師 野口 剛(当館 学芸第一課長)

会場 いずれも根津美術館講堂 定員各回130名

<申込方法>

当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者1イベントにつき1枚)に参加を希望されるイベント名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1「根津美術館講演会係宛」にお送りください。

※ 講演会 1 は3月20日(水)、講演会 2 は3月27日(水)の、いずれも午前10時より受付開始(往復はがきは当日の消印より有効)。

※ 先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

モーニングレクチャー 日時 4月16日(火)、26日(金) 各回 午前11時～
イブニングレクチャー 日時 5月8日(水) 午後5時30分～

会場 根津美術館講堂 定員各回130名

担当学芸員が展覧会の見どころをスライドを用いて解説いたします。各回とも45分程度。事前申し込み不要。開始の15分前より開場。

※ いずれのレクチャーも、先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

展覧会名
主催
開催期間
開館時間

特別展「尾形光琳の燕子花図―寿ぎの江戸絵画―」

根津美術館

2018年4月13日(土)～5月12日(日)

午前10時～午後5時

<記者内覧会のご案内>

2019年4月12日(金) 午後1時30分～3時(予定)
後日ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

休館日
入館料

夜間開館：5月8日(水)～5月12日(日)は夜7時まで開館 (入館はいずれも閉館30分前まで。)

毎週月曜日、5/7(火) (ただし4月29日(月・祝)、5月6日(月・祝)は開館)

一般 1300円 (1100円)

学生 1000円 (800円)

※ ()内は20名以上の団体料金、障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

前売券

一般 1100円 学生 800円

※ 2019年2月28日(木)～3月31日(日) 企画展「ほとけをめぐる花の美術」開催期間中、

当館ミュージアムショップにて販売

アクセス

地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分

住所
お問合せ

〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

Tel. 03-3400-2536 (代表)

website <http://www.nezu-muse.or.jp>

次回展

企画展「はじめての古美術鑑賞―絵画のテーマ―」
2019年5月25日(土)～7月7日(日)

物語絵や故事人物画、名所図など、絵画を鑑賞するうえで基礎知識となる様々な画題について、わかりやすく学んでいきます。

重要美術品
「周茂叔愛蓮図」
伝小栗宗湛筆
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵



同時開催：
展示室5「茶席の書画」
展示室6「雨中の茶の湯」